

主役は俺だー 2022年秋④

■相澤秀輔（あいざわ・しゅうすけ） 帯広畜産大 OL/DL 4年

180センチ、102キロの堂々たる体でオフラインの中央にセットし、ボールスナップと同時にDLを強烈に押し込むブロックを炸裂させる。右隣のG武藤雅嗣（3年）と組み、「ダイブ、ブラスト。インサイドのゴツゴツしたプレーが得意。絶対の自信がある」と胸を張る。昨年の北海道大戦で先制のTDも「中のランで取れた。記憶に残る」と満面の笑みを浮かべた。

帯広柏葉高では野球部の一塁手。北北海道大会にも出場した。実家が十勝管内豊頃町で酪農を営んでいることもあり、獣医師を志望して帯広畜産大へ。アメフト部は先輩から勧誘されて入部したが「戦略を使ったプレーとパワー、筋力を生かす複合的なおもしろさ」にみせられた。ポジションは希望してOLとDLに。「ぶつかることに興味があった」と振り返る。筋力トレーニングの成果で、体重は4年間で25キロ増えた。

2020年、21年とコロナ禍に翻弄された帯広畜産大アメフト部。大学の指示で活動中断が相次ぎ、2020年の道学生選手権は出場できたのが1試合だけ。トーナメントで争った昨年も、1回戦は釧路公立大に快勝したが、準決勝の北海道大戦で6-28と逆転負けした。練習不足が響き、先制TDを生かせなかった。相澤も、当時3年生でベストイレブンのCに選ばれたが喜びと悔しさが交錯したシーズンになった。

迎える最終学年の今季。3年ぶりの6校総当たりに腕が鳴る。「長期戦になるので、芯になるプレーのほかに、いろんなプレーを仕掛けたい。4年間のブロックの総決算にする」と大暴れを狙う。NTとDTに入る守備でも「積極的に中のランを止めたい」と意気込む。そして「今年もベストイレブンを取りたい」と宣言。チームの快進撃を引っ張り、胸を張ってトロフィーを受け取る決意がのぞいた。



〈プロフィール〉

2000年12月24日、十勝管内豊頃町生まれ。畜産学部共同獣医学課程。帯広柏葉高出身。180センチ、102キロ。尊敬する選手は、2019年、20年と2年連続でベストイレブンのCに選ばれた栗田虎之介先輩。「2学年上ですが、スナップミスが無く、一番強いCだった」。